

2022年10月18日

取締役会議長や社外取締役が対話に臨む体制構築へ

— I R 優良企業賞 2022 第 1 次審査の集計結果より —

一般社団法人 日本 I R 協議会（会長：泉谷 直木 アサヒグループホールディングス株式会社特別顧問）は現在、I R 優良企業賞 2022 の審査を進めています。今年は、日本 I R 協議会の会員企業のうち 344 社が I R 優良企業賞 2022 に応募しました。

本リリースは、応募企業 344 社の「調査票」に基づく第 1 次審査の集計結果を参考までにご報告するものです。I R 優良企業賞は、I R の趣旨を深く理解し、積極的に取り組んでいる企業を表彰するもので、3 段階の審査を経て決定します。最終審査の結果は、11 月中旬に発表する予定です。

【調査結果の概要】

（1）I R の目標は「株主・投資家との信頼関係の構築」、「企業・事業内容の理解促進」

「I R の目標を設定し、明文化している」と回答した応募企業は 344 社中 326 社で、その割合は 94.8% だった。最も高い割合を占めたのは前年同様「株主・投資家との信頼関係の構築」（313 社、96.0%）で、ほぼ同水準で「企業・事業内容の理解促進」（311 社、95.4%）が並んだ。対前年で見ると「企業の認知度向上」（66.2%→69.9%）、「企業イメージの向上」（56.1%→58.9%）が小幅ながら上昇している。

（2）社内における I R 部門のプレゼンス向上

I R 部門の実務責任者が「取締役会や経営会議などに陪席するなどの機会を設け、情報を共有している」とする割合は年々増加。「社外の取締役や監査役に株主・投資家の意見や資本市場の状況を報告している」については、3 年前の水準から約 10 ポイント上昇した。

（3）建設的な対話とステークホルダーとの結びつけ

近年、事業部門責任者や社外取締役・社外監査役による長期ビジョンに基づいた対話機会が期待されるようになっている。「株主の希望と面談の主な関心事項を踏まえ、合理的な範囲内で取締役会議長や社外取締役、社外監査役が対話に臨む体制を構築」は 57.6%と、前年から 7.4 ポイントの上昇となっている。

（4）リスクの早期認識と対応、サステナビリティ情報開示の拡充

先行きの見通しが難しいなか、リスクの認識を早めに示し適切に対応しているかをたずねた。足元で市場の関心が高まっている為替変動、物価上昇、感染症や地政学的リスクといった環境変化について、そのリスク認識を適切に開示するための体制を整えているかを聞いたところ、9 割を超える企業が「はい」と回答している。

（5）I R 活動において強調したい点、昨年度と比べて力を入れた点

「中計経営計画や長期ビジョンの策定・進捗の説明」、「情報開示・発信の強化（時間短縮、資料の充実）」を盛り込む回答が多数となった。「株主・投資家との面談機会の確保、面談内容の質向上」に取り組む企業も目立った。情報開示の面では中小型株に属する規模の企業でも、「有価証券報告書の英文開示」、「決算説明会の書き起こし（質疑応答含める）の開示」、「TCFD提言が推奨する開示項目に沿った情報開示」に取り組んでいることがわかった。

本件に関するお問い合わせ

一般社団法人 日本 I R 協議会

電話：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

*日本 I R 協議会とは：1993 年設立。I R の普及を目的とする非営利団体。2022 年 10 月 1 日現在の会員数は 647 社で、研修活動、情報発信活動などを行っている。2010 年 4 月 1 日より一般社団法人へ移行。

URL：<https://www.jira.or.jp/>